

クレジット:

Mathematics and Informatics Center 数理手法VI 2020 荻原哲平

ライセンス:

利用者は、本講義資料を、教育的な目的に限ってページ単位で利用することができます。特に記載のない限り、本講義資料はページ単位でクリエイティブ・コモンズ 表示-非営利-改変禁止 ライセンスの下に提供されています。

<http://creativecommons.org/licenses/by-nc-nd/4.0/>

本講義資料内には、東京大学が第三者より許諾を得て利用している画像等や、各種ライセンスによって提供されている画像等が含まれています。個々の画像等を本講義資料から切り離して利用することはできません。個々の画像等の利用については、それぞれの権利者の定めるところに従ってください。



# 数理手法VI

## 第8回

## 3.2 連続時間マルチンゲールの性質

# 右連続マルチンゲール

フィルトレーション  $\mathbb{F} = (\mathcal{F}_t)_{t \in \mathbb{R}_+}$  を一つ固定する.

離散時間マルチンゲールに対して成り立つ性質の多くは連続時間でも成立する.

$X = (X_t)_{t \in \mathbb{R}_+}$  が (劣/優) マルチンゲールで, 右連続なパスをもつ時,  $X$  を右連続 (劣/優) マルチンゲールという.

# Doob の不等式

## 定理 3.10

$X = (X_t)_{t \in \mathbb{R}_+}$  を右連続劣マルチンゲールとし,  $\alpha, t > 0$  とする. この時

$$\alpha P \left( \sup_{0 \leq s \leq t} X_s > \alpha \right) \leq E \left[ X_t, \left\{ \sup_{0 \leq s \leq t} X_s > \alpha \right\} \right] \leq E[X_t^+].$$

**Proof.** 任意の  $n \in \mathbb{N}$  に対して,  $(X_{kt/2^n})_{k \in \mathbb{Z}_+}$  は  $(\mathcal{F}_{kt/2^n})_{k \in \mathbb{Z}_+}$  に関する離散時間劣マルチンゲールなので離散時間の Doob の不等式より,  $\alpha_m = \alpha + 1/m$  に対して,

$$\alpha_m P \left( \max_{0 \leq k \leq 2^n} X_{kt/2^n} \geq \alpha_m \right) \leq E \left[ X_t, \left\{ \max_{0 \leq k \leq 2^n} X_{kt/2^n} \geq \alpha_m \right\} \right].$$

# Doob の不等式

$m \rightarrow \infty$  とすると, 確率の連続性 (数理手法 IV 命題 4.21) と優収束定理より,

$$\alpha P\left(\sup_{0 \leq k \leq 2^n} X_{kt/2^n} > \alpha\right) \leq E\left[X_t, \left\{\max_{0 \leq k \leq 2^n} X_{kt/2^n} > \alpha\right\}\right].$$

$X$  の右連続性より,

$$\bigcup_{n=1}^{\infty} \left\{\max_{0 \leq k \leq 2^n} X_{kt/2^n} > \alpha\right\} = \left\{\sup_{0 \leq s \leq t} X_s > \alpha\right\}.$$

# Doob の不等式

$n \rightarrow \infty$  とすると, 再び確率の連続性と優収束定理より,

$$\alpha P\left(\sup_{0 \leq s \leq t} X_s > \alpha\right) \leq E\left[X_t, \left\{\sup_{0 \leq s \leq t} X_s > \alpha\right\}\right].$$

□

# マルチンゲール収束定理

## 定理 3.11

$X = (X_t)_{t \in \mathbb{R}_+}$  を右連続劣マルチンゲールとし,  $\sup_{t \in \mathbb{R}_+} E[X_t^+] < \infty$  とする. この時ある  $X_\infty \in L^1$  があって,

$$X_t \rightarrow X_\infty \quad \text{a.s.} \quad (t \rightarrow \infty)$$

**Proof.**  $a < b$  として, 各  $n \in \mathbb{N}$  に対して,  $(X_{kt/2^n})_{k=0}^{2^n}$  が  $[a, b]$  を上向きに横断する回数を  $U_{t,n}[a, b]$  とおくと上向き横断不等式 (命題 1.1) より,

$$E[U_{t,n}[a, b]] \leq \frac{E[(X_t - a)^+]}{b - a} \leq \frac{E[X_t^+] + |a|}{b - a}.$$



# マルチンゲール収束定理

$U_{t,n}$  は  $n$  に関して非減少なので,

$$U_{t,n}[a, b] \nearrow U_t[a, b] := \sup_n U_{n,t}[a, b].$$

よってファトゥの補題より,

$$E[U_t[a, b]] \leq \frac{E[X_t^+] + |a|}{b - a}.$$

$U_{2^m}$  は  $m$  に関して非減少なので,

$$U_{2^m}[a, b] \nearrow U_\infty[a, b] := \sup_m U_{2^m}[a, b].$$

# マルチンゲール収束定理

再びファトゥの補題より

$$E[U_\infty[a, b]] \leq \liminf_{m \rightarrow \infty} \frac{E[X_{2^m}^+] + |a|}{b - a} < \infty.$$

よって  $U_\infty[a, b] < \infty$  a.s.

ゆえに  $\mathbb{Q}_2 := \{m/2^n; n \in \mathbb{N}, m \in \mathbb{Z}\}$  とおき,

$$F_{a,b} = \left\{ \omega; \liminf_{t \rightarrow \infty, t \in \mathbb{Q}_2} X_t(\omega) < a < b < \limsup_{t \rightarrow \infty, t \in \mathbb{Q}_2} X_t(\omega) \right\}$$

とおくと, 任意の  $a < b$  に対して

$$P(F_{a,b}) = 0.$$

# マルチンゲール収束定理

よってあとは離散時間の場合と同様にして、ある  $X_\infty \in L^1$  があって

$$\lim_{t \rightarrow \infty, t \in \mathbb{Q}_2} X_t = X_\infty \quad \text{a.s.}$$

するとパスの右連続性より、

$$\lim_{t \rightarrow \infty} X_t = X_\infty \quad \text{a.s.}$$



(もし  $\omega \in \Omega$  に対して、 $X_t(\omega)$  が  $X_\infty(\omega)$  に収束しないとすると、ある  $\epsilon > 0$  と部分列  $(t_k)_{k=1}^\infty$  で  $t_k \rightarrow \infty$  となるものがあって、

$$|X_{t_k}(\omega) - X_\infty(\omega)| \geq \epsilon.$$

パスの右連続性から、各  $k$  に対して、 $t_k < t'_k$  となる  $t'_k \in \mathbb{Q}_2$  を十分近くとれば、 $|X_{t_k}(\omega) - X_{t'_k}(\omega)| < \epsilon/2$  とできる。

すると任意の  $k$  に対して、 $|X_{t'_k}(\omega) - X_\infty(\omega)| \geq \epsilon/2$  となり、

$t \rightarrow \infty, t \in \mathbb{Q}_2$  の時も  $X_t(\omega)$  は  $X_\infty(\omega)$  に収束しないことになる.)

# 完備確率空間

次に停止時刻と任意停止定理を考える.

## 定義 3.12

確率空間  $(\Omega, \mathcal{F}, P)$  において,  $A \in \mathcal{F}, P(A) = 0$  かつ  $B \subset A$  なら  $B \in \mathcal{F}$  となる時,  $(\Omega, \mathcal{F}, P)$  は完備であるという.

以下, 確率空間  $(\Omega, \mathcal{F}, P)$  は完備であるとして議論を進める.

- ▶ 以下の議論を厳密に扱う上では確率空間の完備性が必要になるが, あまり詳細は触れない.

## usual condition

### 定義 3.13

1. フィルトレーション  $(\mathcal{F}_t)_{t \in \mathbb{R}_+}$  が右連続:  $\mathcal{F}_t = \bigcap_{u > t} \mathcal{F}_u$  かつ

$$\mathcal{N} := \{N \in \mathcal{F}; P(N) = 0\} \subset \mathcal{F}_0$$

を満たす時, *usual condition* を満たすと言う.

2. ブラウン運動  $(B_t)_{t \in \mathbb{R}_+}$  に対して,

$$\mathcal{F}_t = \sigma(\sigma(B_s; s \leq t) \cup \mathcal{N})$$

とおくと,  $(\mathcal{F}_t)_{t \in \mathbb{R}_+}$  は *usual condition* を満たし,  $(B_t)_{t \in \mathbb{R}_+}$  は  $(\mathcal{F}_t)_{t \in \mathbb{R}_+}$ -マルチンゲールになることが示される.  $(\mathcal{F}_t)_{t \in \mathbb{R}_+}$  をブラウニアン・フィルトレーションと呼ぶことにする.

# 停止時刻

以下, usual condition を満たすフィルトレーション  $\mathbb{F} = (\mathcal{F}_t)_{t \in \mathbb{R}_+}$  を考える.

## 定義 3.14

写像  $T : \Omega \rightarrow [0, \infty]$  が, 各  $t \in \mathbb{R}_+$  に対して,  $\{T \leq t\} \in \mathcal{F}_t$  を満たす時, ( $\mathbb{F}$ -) 停止時刻という. さらにある  $M > 0$  に対し,  $T(\omega) \leq M$  ( $\omega \in \Omega$ ) を満たす時, 有界な停止時刻という.

# 停止時刻の性質

## 命題 3.15

1.  $T : \Omega \rightarrow [0, \infty]$  を写像とすると,  
 $T$ : 停止時刻  $\iff$  任意の  $t \in (0, \infty)$  に対し,  $\{T < t\} \in \mathcal{F}_t$
2.  $S, T$  を停止時刻とすると,  $S \wedge T, S \vee T, S + T$  も停止時刻
3.  $(T_n)_{n \in \mathbb{N}}$  を停止時刻の列とすると,

$$\sup_{n \in \mathbb{N}} T_n, \quad \inf_{n \in \mathbb{N}} T_n, \quad \limsup_{n \rightarrow \infty} T_n, \quad \liminf_{n \rightarrow \infty} T_n$$

は停止時刻になる.

# 停止時刻の性質の証明

Proof.

1. のみ示す. 他は演習とする.

( $\implies$ )  $t \in (0, \infty)$  に対し,

$$\{T < t\} = \bigcup_{n=1}^{\infty} \left\{ T \leq t - \frac{1}{n} \right\} \in \mathcal{F}_t.$$

( $\impliedby$ )  $0 \leq t < u$  に対し,  $u > t + 1/N$  となる  $N \in \mathbb{N}$  をとると,

$$\{T \leq t\} = \bigcap \left\{ T < t + \frac{1}{n} \right\} \in \mathcal{F}_u.$$

よって  $\mathbb{F}$  の右連続性より

$$\{T \leq t\} \in \bigcap_{u>t} \mathcal{F}_u = \mathcal{F}_t.$$

□



# 到達時刻

停止時刻の例として、次の到達時刻がある。

確率過程  $X = (X_t)_{t \in \mathbb{R}_+}$  を  $\mathbb{F}$ -adapted かつ右連続なパスをもつとする。  
 $A \in \mathcal{B}(\mathbb{R})$  に対して、

$$T_A := \inf\{t \in \mathbb{R}_+; X_t \in A\}$$

を  $X$  の  $A$  への到達時刻という。

## 命題 3.16

$X$  は  $\mathbb{F}$ -adapted かつ右連続なパスをもつとし、 $A \in \mathcal{B}(\mathbb{R})$  とする。

1.  $A$  が開集合なら、 $T_A$  は停止時刻。
2.  $A$  が閉集合かつ  $X$  が連続なパスをもつなら  $T_A$  は停止時刻。

# 到達時刻の性質

## Proof.

1.

$t \in (0, \infty)$ ,  $T_A(\omega) < t$  の時, ある  $r \in \mathbb{R}$ ,  $r < t$  があって,  $X_r(\omega) \in A$  となる. すると,  $A$  は開集合で  $X$  は右連続なパスをもつので, ある  $q \in \mathbb{Q}$ ,  $q < t$  があって,  $X_q(\omega) \in A$ .

よって,

$$\{T_A < t\} = \bigcup_{q \in \mathbb{Q}, q < t} \{X_q \in A\} \in \mathcal{F}_t.$$

( $X_q$  は  $\mathcal{F}_q$ -可測,  $\mathcal{F}_q \subset \mathcal{F}_t$ ,  $\mathbb{Q}$  は可算. )

## 到達時刻の性質

2.

$$A_m := \left\{ x \in \mathbb{R}; \inf_{y \in A} |x - y| \leq \frac{1}{m} \right\}$$

とおく. ( $A$  を  $1/m$  だけ広げたもの)

$t \in [0, \infty)$ ,  $T_A(\omega) \leq t$  の時,  $A$  は閉集合で  $X$  は連続なパスをもつので, ある  $s \in [0, t]$  があって,  $X_s \in A$ .

( $T_A$  の定義より, 数列  $(s_n)_{n \in \mathbb{N}}$  で  $X_{s_n} \in A$  かつ  $s_n \rightarrow s$  となるものがとれる. この時  $X_{s_n} \rightarrow X_s$  で  $A$  は閉集合より  $X_s \in A$ .)

この時,  $(q_n)_{n \in \mathbb{N}} \subset \mathbb{Q} \cap [0, t]$  で  $q_n \rightarrow s$  となるものをとれば,  $X_{q_n} \rightarrow X_s \in A$  なので, 任意の  $m \in \mathbb{N}$  に対し, ある  $n$  があって,  $X_{q_n} \in A_m$ .

## 到達時刻の性質

よって

$$\{T_A \leq t\} \subset \bigcap_{m=1}^{\infty} \bigcup_{q \in \mathbb{Q} \cap [0, t]} \{X_q \in A_m\}.$$

逆向きの包含は、 $\omega$  が右辺に含まれる時、 $X_q(\omega) \in A_m$  となる  $q$  を  $q_m$  とすれば、 $(q_m)_m \subset [0, t]$  より、ある部分列  $(q_{m_k})_{k=1}^{\infty}$  と  $s' \in [0, t]$  があって、 $q_{m_k} \rightarrow s'$  となる。この時、 $X_{s'} \in \bigcap_{m \in \mathbb{N}} A_m = A$  となることからわかる。

ゆえに

$$\{T_A \leq t\} = \bigcap_{m=1}^{\infty} \bigcup_{q \in \mathbb{Q} \cap [0, t]} \{X_q \in A_m\} \in \mathcal{F}_t.$$

